

創意工

高付加価値部品のトップブランドを目指して

第53期上期の振り返りと 下期の展望



代表取締役
清水 克洋

第53期上期の振り返り

今期がスタートした2021年10月以降、当社の主力3部門である半導体・工作機械・軸受が好調に推移したこともあり、上期の総評として《良い結果》だったと捉えています。

今期の部品事業での売上目標は12億円であり、当社の年間稼働日数255日で割ると1日当たり約470万円の売上が必要となります。このことは営業部においては日々、470万円の受注を獲得し、製造部においては、470万円の完成品を生産し、生産統括部においては470万円の製品を出荷することを指します。この目標値に対して、上期は1月度を除いて概ね目標値に近い実績を残すことができました。

1月度に関しては、年末年始の長期連休があり、当社の稼働日数が少なかったことも影響して売上額が約6122万円（1日あたり約333万円）と売上目標から大きくマイナスとなりました。

1月度の社内の状況を振り返ると、年末まで忙しい状況が続いていたところから一転して、出荷予定金額が約8000万円（1日あたり約445万円）と低く、社

内に流動している製品も少なくなり、閑散とした状況だったことを思い出します。この状況から1人ひとりの意識が緩み、作業効率の低下が見受けられました。もちろん、意識的なことだけが要因ではありませんが、低調な実績につながった一つの要因だと考えています。

その他の月の結果が良かっただけに、1月度の落ち込みが心残りとなりました。

第53期下期について

下期については、上期の良かった点を継続し、1月度で気付いた反省点を改善していく必要があります。

下期には5月度にゴールデンウィーク休暇、8月度にお盆休暇という2回の長期連休があります。上期の実績で示された通り、長期休暇による月の稼働日減少が受注額・売上額に大きく影響する傾向があります。

長期休暇がある月においては、例月以上に社員の皆さんの時間の使い方を見直し、消化工数等にこだわって各自の業務に従事してほしいと思います。その積み重ねが1日当たり約470万円の受注額・売上額につながると思います。

材料費高騰という新たな課題

最近、当社に限らず業界全体において材料費の高騰が話題となっています。当社では、ニッケルを多く含んでいる耐熱合金を多く加工しています。

ニッケルは、世界的に脱炭素化の動きが進む中、リチウムイオン電池などに活用されているため需要が高くなり、価格が

高騰していました。そこに今般のロシアのウクライナ侵攻の影響が追い打ちをかけています。ロシアはニッケル産出において世界第3位であり、日本はロシアから多く輸入していました。

現在のニッケル価格の高騰は需要増加を起因としていますが、2〜3カ月後にはロシアとの貿易断絶の影響で更なる高騰を予測しています。

この状況について、当社のお客様にもご理解を頂いているため、当社として材料費高騰による製品価格への転嫁について、しっかりとエビデンスをスピーディーに提供することが必要です。エビデンスが不十分な状態ではご理解をいただくのは難しくなりますし、対応が遅ければ当社の収益性に影響を及ぼします。材料調達を担当する生産統括部においては、いつも以上にシビアに調達価格を精査する必要があります。また生産統括部のみならず各部署がそれぞれの役割を徹底し、連携を強化することで、材料費の高騰に対応していきたいと思えます。

ビヨンドコロナに向けて

先述の通り、世界的な大きな出来事が起きている中、日本においても物価上昇など景気後退の要因につながる事象が起きている。

当社だけでは、どうすることもできない事柄も多々ありますが、今年にはコロナショックから立ち上がりを示し、脱却したと言える年にしたいと思っています。

社員の皆さんにおいても、様々な状況の変化に対して臨機応変に立ち振る舞うことができるようにアンテナを貼り、日常生活を送ってほしいと思えます。



マシニングBK

奥野さん

海原さん

沢村課長

当社のモノづくりを支える、マシニング・汎用フライス・汎用旋盤・研削の各加工技術を紹介します。今回は、マシニングBKより、沢村課長、奥野さん、海原さんに話をお伺いしました。

マシニングBKの特徴

当社マシニングBK(ブロック)の一番の特徴は5軸加工機の保有台数です。会社全体では13台のマシニングセンタを保有しており、航空機部品を製作するAPSとともに、各オペレーターによって毎日稼働させています。

マシニングセンタだけで13台保有している点は、同規模のモノづくり企業と比較しても突出していると思います。

充実した設備群によって、他社では複数回の段取りが必要な加工であっても、ワンチャックで複数面の加工が可能となるため、完成までのリードタイムの短縮や加工精度の向上、ミスの防止につながります。

設備紹介

マシニングBKでは、充実した設備群を、生産計画に合わせて選択しています。材料や形状・ワークサイズなど、いつどの設備で加工することが良いのか考えながら設

備を割り当てています。

当社の保有する加工機では最大1500mmから最小10mm程度まで、大小様々な製品に対応することが出来ます。

また、素材も鉄やステンレス、アルミニウムだけでなく、チタンやインコネル、ハステロイといった難削材の加工にも対応しています。

多台持ち・多能工の推奨

当社では、加工プログラムは別部署(技術課)が担当する分業体制を敷いています。この分業により、製造現場でのプログラム入力時間を削減し、加工に集中できる環境を整備することで効率よく生産できる体制を整えています。

分業体制と充実した設備群を活かして、多台持ちを推奨していることもマシニングBKの特徴です。多くの加工機があっても、稼働していなければ意味がありません。効率よく複数台同時に加工し続けるために、次の製品の段取りや治具の作成など、加工機が動いている間に先取りできる作業を考え、ムダな時間を極力減らすようにしています。

また、松浦機械製作所・ヤマザキマザック・DMG森精機などそれぞれの工作機械のクセや操作方法について把握し、誰でも対応できる状態を構築する工夫を実施しています。

加工プログラムや段取りシ

ト、ツールリストなど加工時に必要な情報が全てセットになって、手元にある仕組みも当社の多能工にとって重要なことだと思えます。

加工時の注意点

我々オペレーターは、ミスの防止にも努めています。段取りなどにミスが無くとも、プログラムに異常があれば、加工形状や精度での不良が発生します。

プログラムは別部署が作成していますが、実際の加工はオペレーターが担うのため、プログラムの最終確認も役割です。

プログラム作成を担う技術課は、若いスタッフが多いこともあり、我々の方が多くの経験値を有していますが、分業体制となっています。分業体制と共有することから、お互いにとってより良い仕事につながっています。



社 会 人 1 年 目 を 振 り 返 っ て



製造部 奥村さん

①最も印象に残っている出来事

入社当初、工場内に掲示されている所有資格一覧を見た際に、三浦課長の名札がたたくさん掲示されていました。

ベテランの職人をイメージしていましたが、実際に会ってみるとイメージと全く違い、若く、驚いたことが記憶に残っています。

②この1年間で成長したと思うところ

入社当初は、標準書通りに段取りを行い、加工することがほとんどでしたが、昨年末頃より、自分で治具や工具の選定をして加工することも多くなってきました。最初は、どうすれば良いか分からず1週間程かかりつきり加工する製品もありましたが、今ではモノによっては1日で終わるようになり、成長したと感じています。

③今後の目標

まずは、機械検査2級の合格を目指します。そしてNC旋盤や機械保全技能など、様々な資格を取得し、三浦課長のように様々な資格を保有するモノづくりのプロフェッショナルを目指したいです。



製造部 野村さん

①最も印象に残っている出来事

驚いた出来事は、機械の水漏れです。自社メンテナンスだけでは直らず、取引先に修理してもらっている最中にも、別の箇所からも水が漏れ始めたことには驚きました。嬉しかった出来事は予定よりも早く加工が終わった時です。とても嬉しく感じました。

②この1年間で成長したと思うところ

部品の取り付けなど、入社当初は勝手が分からず、時間が掛かっていた作業が、今ではコツをつかみスピードアップしました。ワークの叩き方など、身体で覚えていくことも1年間で身に付けることができたと感じています。また、自分一人で担当できる作業も徐々に増えてきました。

③今後の目標

同じ課内でも、まだ経験したことがない仕事があります。今以上に、出来ることを増やしたいと思っています。



製造部 長草さん

①最も印象に残っている出来事

初めてアルミの加工をした時が印象に残っています。穴あけとキー溝加工という単純な製品でしたが、多くの失敗をしてしまいショックを受けました。しかし、先輩方から優しく、アドバイスをいただくなど、辛さと同時に嬉しさも感じる出来事でした。

②この1年間で成長したと思うところ

入社当初は、旋盤という言葉も聞いたことが無いような状態でした。そこから1年経った今、しっかりと製品を加工し、モノづくりに携わっていることができていることが成長だと感じています。汎用旋盤は、手作業ならではの難しさもあり、大変ではありますが、モノづくり企業とは何かを、少しではありますが学ぶことができたと思っています。

③今後の目標

モノづくりに携わりたいという思いから入社しました。知識や技術など、モノづくりの世界はまだまだ知らないこと、分からないことの方が多く、これからも学び続けたいと思っています。



製造部 吉森さん

①最も印象に残っている出来事

社内での推進するDX化に向けた取り組みの「IPADプロジェクト」が印象的です。私の案がプロジェクト名に採用されたことや、会議に出席する中で、社内の知らないことだけでなく、専門用語やビジネス用語など、自身の知識不足を実感しています。

②この1年間で成長したと思うところ

1人で出来ることが増えてきたこと、時間を有効に使えるようになってきたことです。最初は1人で出来ることもほとんどなく、加工中の時間も持た余していましたが、2台の加工機の担当となったことがキッカケで、今では次の仕事のことを考えた段取りなど、ムダな時間が減りました。

③今後の目標

出来ることを増やすことと、ミスを無くすることが目標です。1年経ち、仕事に慣れ始めたからこそそのミスが増えてきたと感じています。加工前の点検など、基本に戻り、気を引き締めてミスをゼロを目指します。

カブと行くキャンプ△



大学時代に免許を取得したバイクの趣味と最近ハマったキャンプを満喫しています。免許取得直後は、大型バイクに乗っていましたが、しばらくバイクと離れる期間が続きました。最近になりバイク熱が再燃し、今はカブに乗っています。

キャンプはここ数年で始めた新しい趣味です。行きつけの床屋でオスメされた「ゆるキャン△」というマンガがきっかけとなり、月に1、2回、一人で気ままに楽しんでいます。キャンプでの一番の楽しみは夜に焚火をしながら飲むお酒です。

平日に行くとキャンプ場が一人っきりの貸し切り状態になることもあり、真つ暗で静かな自然の中で、焚火を眺めながらゆったりと楽しむ晩酌は最高の瞬間です。



愛車のカブとキャンプ場

最近のトピックス



「ゆるキャン△」に登場した長野県のキャンプ場まで片道4時間カブに乗って行ったこともあれば、雪が降る中の雪中キャンプに挑戦することもありました。朝起きた時にテントが雪で埋まってしまったことや、片付けをするときに気温が低くて凍っていました。家に帰ってから、乾かす手間が増えるなど、面倒に感じることもありますが、その手間も含めてキャンプの楽しみだと感じています。



↑雪中キャンプでの料理

←雪が積もるテントとタープ



石金ニュース!



~野球観戦~



1課 中川さん

ビッグニュース
大谷翔平選手の活躍

5、6年ほど前から、野球好きの友人と一緒に野球観戦をしています。コロナ禍でもLINEで感想をやり取りし合うなど、一緒に観戦している気分を味わっています。

野球というスポーツが好きなので、高校野球からメジャーリーグまで幅広く見ていますが、最近注目しているのは、大谷翔平選手です。皆さんもご存じの通り、数々の偉業を成し遂げており、次はどんな活躍をしてくれるのか楽しみにしています。

時折、大谷選手が所属しているロサンゼルス・エンゼルスとの試合中継を見ることもありますが、いつの日か現地で試合を観戦してみたいです。

野球一筋の理由

野球観戦の趣味は、父親が夕食時によく試合を見ていたことがきっかけで、気付けば自分も楽しんでいました。他にも様々なスポーツがありますが、選手の移籍が少なく、ひいきの球団や選手をずっと応援できると、他のスポーツにはない、守備と攻撃が明確に入れ替わることが気に入って、野球一筋で来ています。

コロナ禍が続いていますが、落ち着いたら友人と一緒にひいきの球団の試合を見に行きたいと思っています。